

# 知ろう！考えよう！公共施設のより良いかたち in 学校法人大原学園

～開催報告～

2019年1月10日（木）・29日（火）は第2弾となる、再編に向けた取り組み“みんなで考える場”を学校法人大原学園町田校において開催しました。

59名の生徒さんには、公共施設の再編に向けた課題を踏まえ、市の立場としてどのように取り組んでいべきかを考えていただきました。春から社会人となる生徒さんは、卒業研究を兼ねたカリキュラムとあって終始真剣な眼差し。たくさんの議論が交わされた研究成果は、学生ならではの視点による大変参考になるアイデアでした。



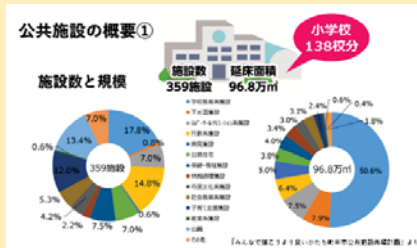
## ① 講義

市職員から「公共施設の再編」をテーマに30分ほどお話をしました。はじめに公共施設の再編が必要な背景や再編で目指すことについて説明しました。そのうえで、「施設を減らす」ことの課題や取り組んでいかなければならない対応を確認しました。



▲講義の様子  
背筋を伸ばして市職員の話聞いています。

たくさんある公共施設をデータで確認



公共施設の再編で目指すこと

1. 施設の数減らす
2. 維持管理にかかるコストを削減する
3. 民間と連携してサービスを提供する
4. 今ある資源をフル活用する

←計画で定めている4つの基本方針

施設を減らすうえでの課題

- ① 廃止する公共施設の選定
- ② サービスの維持向上（提供方法の見直し）
- ③ 施設利用者や地域住民の理解・納得を得る

▲みんなが納得できる再編を考える

自由な発想で柔軟に考えてみよう



## ② 研究課題

講義で説明した施設を減らしていくうえでの課題を踏まえて、具体的な再編プランを考えていただきました。単なる施設削減でなく、サービスが向上し、これまでの施設利用者や地域住民が納得できる再編案が作れるかがポイントです。

【研究テーマ】

- ① 効果的な公共施設総量の削減方法について
- ② 市民や民間事業者との円滑な取組推進について

日原 博幸

## ③ 発表



貴重なご提案ありがとうございました。

いよいよ研究発表当日。生徒さんたちは緊張した様子。全8グループのうち、公共施設の再編をテーマに発表したのは4グループでした。各グループとも町田市資料や他自治体の動向などを細かに調査し臨んでいました。具体的な再編案やその事業効果、新たに生まれる価値など、再編を通した総合的な課題に対する研究発表が行われました。



▲発表の様子  
短い時間の中で多くの調査・分析をしていただきました

## 各グループの発表内容

**Aグループ** テーマ：公共施設の効果的な削減方法

図書館8館のうち4館を削減する代わりに、移動図書館を運行してサービスを補う案と学校を改築する際に文化施設を複合させる案が提案されました。



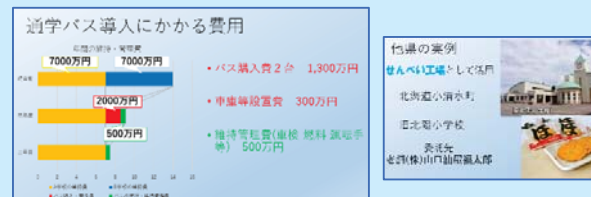
施設の分布や規模などから削減すべき施設を選定しました。



クラス数が減少し、空き教室が増えていることに着目しました。文化施設との複合で教育の質の向上も期待。

**Cグループ** テーマ：公共施設の効果的な削減方法

学校の統廃合と施設の複合化に焦点を当てました。統廃合には通学バスを導入し、通学における課題に対応し、廃校となる学校は食品工場として民間活用する案が提案されました。



同じ地域にある図書館を複合施設として改修  
例 中央図書館 ← 中央図書館  
→ さくら図書館  
・期日 1970年代に建設された40年超  
・老朽化 老朽化、空調ともに劣化  
・利用 児童、高齢者ともに減少  
・管理 1.5ヶ月に1回、メンテナンス

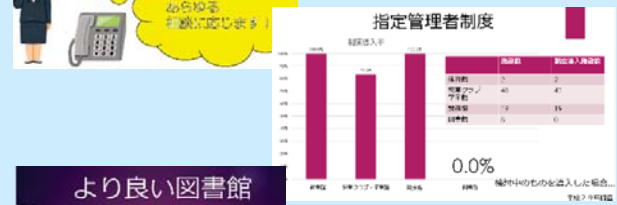
成功事例を参考に、図書館3館の複合化とあわせて飲食店などの民間施設を入居させることで新たな利用者の獲得も狙う。

**Bグループ** テーマ：市民や事業者との円滑な取組推進

市民と信頼関係を築くこと、より民間と連携していくことを課題に挙げ、相談窓口の強化による信頼獲得と図書館への指定管理者制度の導入が提案されました。



あらゆる相談に対応することで市民からの信頼を得ていく。



より良い図書館

- ① 利用時間が短い → 民間委託で時間統一化
- ② 品揃えが少ない → 本の維持管理の向上
- ③ 図書に触れる機会を増やしたい → 他施設との合併

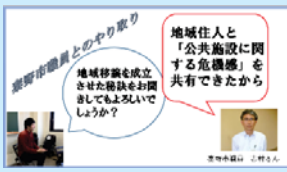
指定管理者制度によって民間と連携することで、これまで抱えていた課題を解決できるのではないか。

**Dグループ** テーマ：公共施設の効果的な削減方法

秦野市職員への聞き取り調査を実施し、再編に向けた地域との関わり方について話を伺いました。また、機能集約による複合化案が提案されました。



学生など今まで歴史に触れることのなかった人に知ってもらいたい。



子どもと高齢者の交流から、学びや運動の機会が生まれる。